

渡日前の留学経験が日本語読解教材の読みに何をもたらすか

—PAC 分析による日本語学習者 AB に対する縦断研究から—

丸山千歌（立教大学）

小澤伊久美（国際基督教大学）

How Study Overseas Experience Prior to Japan Appears on the Learners' Responses to Reading Materials for Japanese Language Education: Findings from Longitudinal PAC analysis interviews to Two Learners of Japanese

Chika MARUYAMA (Rikkyo University)

Ikumi OZAWA (International Christian University)

キーワード：留学体験 日本語教育 縦断研究 読解教材 反応

Key words: study abroad experience, Japanese language education, longitudinal research, reading material, responses

SUMMARY

This paper is a longitudinal research by PAC analysis that attempts to investigate how exchange students from the UK who are learning Japanese respond to Japanese reading texts. It compared the responses of two students whose properties are mostly same except for that student A does not have a study overseas experience prior to Japan, but student B does. It made clear B has the broader perspective than A when they respond to the text.

1. 研究の背景と目的

留学プログラムの教育効果の検証に質的に取り組んだ研究には英語教育では工藤（2009）などがあるが留学生の受け入れに係わる留学プログラムの中の語学教育である日本語教育についてはほとんどない。

留学プログラムの中の語学教育であることを意識し教材論や授業実践論への指針作りを視野に入れて日本への留学体験が日本の社会や文化に関するステレオタイプのな情報が盛り込まれた日本語教材の読みにいかに現れるのかを考察したのが丸山・小澤(2011a)他である。この研究では PAC 分析法を用いて日本語学習者がステレオタイプのな読解教材を読んだ場合どのような影響を受けるのかまたその影響は学習者の属性留学体験といかに関わるのかを縦断的に調査し質的に分析したもので①渡日前に教材から発想したステレオタイプのなイメージは留学体験の有無だけでは変わらないこと②イメージの変容に影響を与える要因として留学体験がその学習者にとって新味を持つかどうか留学中に日本人などとの接触体験があるかどうか指摘された。この調査

は調査時期によって異なるテキストを刺激としていたが全て同じテキストを刺激として協力者個人の変容を分析したのが丸山・小澤（2011c）である。この研究は調査協力者自身が自分が読みたいと思う読解教材を選ぶという前提があれば複数回同じテキストを読むことにより協力者が調査に対して消極的になるといったことはなくむしろ内省を深める可能性もあることを示唆した。

そこで発表者らは英国からの留学生8名について留学前・中・後にPAC分析を用いて読解教材から発想するイメージの変容を明らかにする新たな縦断的調査を実施した。そのデータのうち日本語レベルや日本語学習環境がほぼ同一で渡日前の留学経験の有無が異なる1年交換留学生AとBの留学前・留学中の時期のデータを取り上げ2名が読解教材から発想するイメージの変容の相違を分析したのが丸山・小澤（2013）である。ここでは日本への留学が初めての留学経験か否かが2名の発想の相違に影響を与えている可能性が確認された。本論文では、この2名についてさらに留学後のデータを加えて分析した結果を報告したい。

2. 調査

2.1 調査協力者

調査協力者は、英国からの1年の交換留学生（女性）AとBの2名である。2名とも専攻は日本語と経営学で、二人の日本語学習歴はインタビュー開始時において、大学で1年半（週10時間）、日本語力は中級前半であり、今回の留学が初めての滞日経験となる点も共通しているが、Aは英国出身の学生で、Bはヨーロッパ圏から英国への留学生であり、Aにとっては日本が初めての留学経験となり、Bにとっては日本は2つめの留学経験となる点異なる。留学中は同じ大学に通い、同じ寮に滞在し、同じレベルの日本語クラスを受講した。帰国後も同じ大学に戻り同じ専攻で講義を受けている。

2.2 調査の手続き

刺激の選定は上述の丸山・小澤（2011c）を踏まえて留学前の調査段階において学習者自身に委ね、同じ刺激についてのPAC分析を実施する形を取った。調査協力者が踏んだ手順は丸山・小澤（2013）と同様にPAC分析に加えて日本に関するモノゴトとの接触状況についてのフェイスシートへの記入およびインタビューを行った。

2.3 日本に関するモノゴトとの接触状況-フェイスシートの情報から

本研究では、丸山・小澤（2008）に基づき、日本に関するモノゴトとの接触状況についての質問を加えたフェイスシートを使用し、PACインタビューの休憩時間を利用してフェイスシートへの記入を依頼した。質問項目は、留学前と留学中、留学後とで日本・日本人に関する情報へのアクセスの経路、頻度、情報の内容の変化を追うことを目的とし、具体的には、メディア（新聞・雑誌・インターネット・TV・その他）、人間（家族・友だち・教師・その他）、日本語のクラスへのアクセスの頻度、重要度（<5:重要>から<1:重要ではない>の5段階評価）を尋ねた。その結果が表1と表2である。また、そのフェイスシートを見ながらその場で補足質問的なインタビューを

行った。

表1 Aの日本に関するモノゴトとの接触状況について

	留学前		留学中		留学後	
	アクセス頻度 (接触対象)	重要度	アクセス頻度 (接触対象)	重要度	アクセス頻度 (接触対象)	重要度
メディア： 新聞・雑誌・ インターネット・TV・その他	週5回程度 (インターネット)	4	1日5回程度 (TV・映画・音楽)	4	1日5回程度 (5-6時間、新聞、 日本語のtwitter、 facebook、日本語の youtube)	4
人間： 家族・友達・ 教師・その他	毎日 (大学に留学中 の日本人学生と 直接)	4	1日5回程度 (友達・教師：直 接、英国の大学で 知り合った日本人 学生と Facebook で)	5	1日5回程度 (友達・教師：英国に 留学している日本人 の友人、日本にいる 友人とはときどき skype、毎日のこと も)	5
日本語のクラス	週5回程度	5	週2回程度	5	週3回程度	5

表1はAの日本に関するモノゴトとの接触状況をまとめたものである。留学前からメディア、人間、日本語のクラスで積極的に日本・日本人へアクセスしており、本人にとっての重要度も5段階評価で4と積極的に評価している。留学中は日本人との接触に対する重要度が高くなっている。フェイスシートに基づくインタビューからは、留学前に送り出し校で友人になった日本人留学生と日本でも会い、留学先の大学でも国際交流サークルなどを介して日本人学生との交友関係を広げていることがわかった。留学後もメディアや日本語クラスのほか、英国に留学している日本人の友人や日本留学中に会った日本人の友人とも高い頻度で接触をしており、これらの接触の重要度は高いままである。

表2 Bの日本に関するモノゴトとの接触状況について

	留学前		留学中		留学後	
	アクセス頻度 (接触対象)	重要度	アクセス頻度 (接触対象)	重要度	アクセス頻度 (接触対象)	重要度
メディア： 新聞・雑誌・ インターネット・TV・その他	週4-5回程度(インターネット)	5	1日に1回程度 (Facebook)	3	週に2-3回程度(インターネット：授業関係も)	3

人間： 家族・友達・ 教師・その他	週 2 回程度（教 師大学に留学中 の日本人学生と 直接）	4	1 日に 2-3 回 （留学先の大学の 国際交流サーク ル、寮の日本人学 生）	5	毎日 （日本語のクラスの 6 人と同居。日本語 が共通言語に）	5
日本語のクラス	週 2-3 回程度	5	週 3 回程度	4	週 3 回程度（自発的 に時間は作れない。 時間を確保している のがいい。）	5

表 2 は B の日本に関するモノゴトとの接触状況をまとめたものである。B も留学前からメディア、人間、日本語のクラスで積極的に日本・日本人へアクセスしており、本人にとっての重要度も 5 段階評価で 5 と積極的に評価している。留学中は国際交流サークルを介して日本人学生との交友関係を広げており、さらに空手部に積極的に参加している。空手部は部員は多いものの通常集まるメンバーは B を含め 6 名と小規模で、B は初心者であるが、週 4 日できるだけ練習に出るようにしている。留学後も日本・日本人へのアクセスを積極的に行っており、日本語クラスの友人 6 名と同居し、日常生活で日本語を共通言語として生活している。日本語の学習は自発的にはなかなか時間が作れないので、日本語クラスを履修することで日本語学習を意識的に継続している。

以上から、A と B はそれぞれのスタイルで留学後も日本・日本人と積極的に関わっていることがわかる。

3.結果 -連想語を中心に-

A と B の留学前・中・後の連想語は表 3-表 8 の通りとなった¹。以下、二人の連想語を留学前、留学中、留学後で比較する。

3.1 A の連想語

表 3 A の留学前の連想語

Clusterの名付		重要度	連想語	印象
Alcohol	CL1:Drinking after work	14	It's common to drink alcohol after work.	0
		15	It makes me want to go out to the pub again.	+
		7	People's lives at work and their home lives blend into one.	-
		1	There is a culture of drinking with colleagues from work.	0
		6	If people reject an invitation to go out drinking, they will feel bad about it the next day.	-
		9	People feel forced to drink alcohol	-
		13	People should not reject or refuse to go drinking when they've been invited.	-
		3	I don't see how people can go out all of the time and keep up with work and assignments.	-
	CL2:Downsides to drinking	8	After drinking alcohol people then feel like they can do anything they want to.	-
		16	People drink or drive after drinking alcohol.	-
	CL3:Socializing with alcohol	11	It makes me think of going out for birthday and not being able to go to lectures the next day because I was ill.	-
		12	It reminds of going out with my Uni friends to the pub to drink, even though I had a 9am lecture the next morning.	-
		10	I want to go out and drink with my friend even though I know it will cause stress for me at uni.	-
		4	The more I think about drinking the more nauseous I feel.	-
		5	People are often hung over after going out to drink.	-
		2	More and more, the trend of drinking after work is decreasing.	0

表4 Aの留学中の連想語

Clusterの名付		重要度	連想語	印象
お酒を飲む習慣	CL1:イギリスのお酒	21	イギリスとくらべて、日本のお酒のぶつ (prices) は高いです。	-
		24	イギリスに安いお酒がたくさんありますが日本で安いお酒あまり見てません。安いお酒⇒cheap versions e.g. smirnoff vodka, tesco vodka	-
		15	日本のいざかやとイギリスのパブ (pub) はとても違います。	0
		20	日本のお酒とイギリスのお酒は違います。	0
		14	お酒を飲むイギリス人はとてもうるさいです (loud/rowdy)。お酒を飲む日本人はそんなにうるさくないです。	+
		9	日本はお酒を飲むしゅんかんがあるのに、私は日本にお酒をあまり飲みません。	+
		23	忘年会の時、私はお酒をあまり飲みませんでした。	0
		CL2:あぶないです	19	酔うのはあぶないです。(Being drunk is dangerous)
	22		日本人はお酒が弱いです。	+
	6		イギリスでお酒を買う時、若い人はいつもIdentificationを見せさせています (are made to show I.D.)。	0
	17		ぶつ (hangover) 日本人を見たことがありません。	+
	18		日本に次の朝吐き気などがしないために、薬がたくさんあります。	+
	12		イギリスとくらべて、レストランやいざかやに飲みほうだいがたくさんあります。	+
	CL3:仕事のお酒	13	日本にカラオケやクラブに5時までお酒を飲みます。イギリスで、これを出来ません。	+
		1	日本人の仕事はストレスがたくさんあるので、お酒を飲みます。	-
		2	もっとじしんを持っているために、お酒を飲みます。たとえばカラオケへ行くとき、これを見えます。	-
		10	日本ではお酒をのむ社会があります。	0
		16	都市でお酒を飲むあとで、人が運転しません。電車がたくさんありますから、べんりです。	+
		4	お酒を飲むのは大事なしゅんかん (custom) です。	-
		11	お酒を飲まない日本人があまりいません。	0
		7	日本に、仕事と自分の生活はmixed-/not separated.	-
8		仕事のあと、お酒を飲みに行くのはふつうです。	0	
5	お酒を飲み行くの (invitation誘い) があれば、断るのはだめです。	-		
3	平日なのに、お酒へ飲み行くサラリーマンがたくさん見えます。	-		

表5 Aの留学後の連想語

Clusterの名付	重要度	連想語	印象
日本のお酒を飲む文化の問題と変化	CL1:	22 お酒を飲みすぎるのがけんこうに悪い。	-
	日本で お酒を 飲むこと	23 お酒を飲むと、次の朝ちようしが悪くなるのに、人々はまだ酒を飲む。	-
		12 日本で他人にめいわくをかけるのが悪い。	-
		20 よっぱらうのが悪い。	-
		21 お酒を飲んで車を運転するのがあぶない。	-
		17 日本人は酒に弱い。	0
		18 日本人はお酒をよく飲むのに、お酒のつよさはあまりつよくないと思う	-
		19 日本でみちで酒を飲める。	0
日本のお酒を飲む文化の問題と変化	CL2:	6 若者は仕事と自分の生活を区別したい。	+
	日本の 文化の 変化	8 「つきあい酒」は仕事と自分の生活をまぜることです。	0
		2 日本でのお酒を飲む文化は変っている。	+
		9 日本は海外からのえいきょうがあります。	0
		7 最近、若者は「つきあい酒」をあまりしない。	0
日本のお酒を飲む文化の問題と変化	CL3:	4 お酒はストレスに対してことだ。	-
	日本の 文化の 問題	10 日本の社会人はストレスを感じる。	-
		1 日本は「collectivist」な社会だ。	0
		13 日本で酒を飲む招待を断るのが悪いことだ。	-
		15 日本人は仕事のあとお酒を飲み行く。	-
		16 日本で酒を飲むチャンスが多い。	+
		5 日本人はおそくまでお酒を飲みに行きます。	-
		11 日本で酒を飲む文化があります。	0
		14 日本人は酒をいっしょに飲むが、他のことを一人です。(食べるなど)	+
3 日本のお酒を飲む文化は昔からのことだ。	0		

Aの留学前の連想語は “It's common to drink alcohol after work.”や “If people reject an invitation to go out drinking, they will feel bad about it the next day.” など読解教材で提示された情報が出てくる、または “It makes me think of going out for birthday and not being able to go to lectures the next day because I was ill.”のように英国での大学生活の経験に基づく連想語が出てくるが、日本と英国との比較などの相対的な視点はあまり観察されない。一方で、留学中の連想語では、「お酒を飲むイギリス人はとてもうるさいです (loud/rowdy)。お酒を飲む日本人はそんなにうるさくないです。」「イギリスでお酒を買う時、若い人はいつも Identification を見せさせています (are made to show ID.)。」「平日なのに、お酒へ飲み行くサラリーマンがたくさん見えます。」「ふつかよい(hungover)日本人を見たことがありません。」「もっとじしんを持っているために、お酒を飲みます。たとえばカラオケへ行くとき、これを見えます。」など日本での経験を伴う視点や、「日本のいざかやとイギリスのパブ (pub) はとても違います。」など日英を相対化する視点が多く見られ、連想語とデンドログラムに基づくインタビューの中でも直接の日本・日本人との心に残る接触体験が語られた。

留学後は 留学中のインタビューにも表れた話題以外に、「日本は「collectivist」な社会だ。」や「日本人は酒をいっしょに飲むが、他のことを一人です。(食べるなど)」の連想語は留学中のインタビューでは出なかった経験についての連想語が出てくる。

「日本は「collectivist」な社会だ。」の連想語では日英両方の講義科目の知識 (例 1)

と留学体験（例2）が統合して語られた²。

例1：日本人はあの、ん、日本は、他の国と比べて、あの、あ、グループな社会です。あの、あ、全部は、あの、一緒によ、やろう。あー、あ、やろう（うん）、あー、考え方があります。（中略）あの、イギリスはもっと、あの、個人的な、な・・・な社会です（うん）。もっと、individualistic。（うん・・・これはテキストからですか、Hannahさんの経験からですか↑）あー、私の考え方です（うん）。あの、授業で、習った事です。（うん。どこの授業で習いました↑）あー、X³

例2：うーん・・・はい、あの、大学で、あの、みんなは、あの、みんなは同じ、あー、同じことをしました。うー、あの・・・あー・・・考えています(笑)あー・・・(いつ、授業で、サークルで↑)サークルです。はいはい。みんなは、同じ、ことにしま、しました。あー・・・(中略)飲み会で、あの、みんなは、日本人はみんな一緒に行きました。（中略）わたし、たぶん、あの、日本で、あの、例えば、あの、飲みに行くとき、あー、飲みに行く前に、あの、日本人は、あの、駅で（うん）、あ、会いますの、一緒に行きますが、あの、イギリスで、あの、場所で会います。

また、「日本人は酒をいっしょに飲むが、他のことを一人でする。（食べるなど）」では、日本は集団で行動する傾向がある一方で、ラーメン屋などでは一人で食事をする人をよく見かけたと語り、物価の差から英国と日本とで個人にとっての外食の位置づけが異なると分析をした（例3）。

例3：日本人はあの、collectivistな社会で、その、一緒に飲む、あ、飲みますが、レストランとか、あの、レストラン、あ、ラーメン屋とか、あの、自分で、あー、食事をたべ、食べることが見えました。あの、これは、イギリスで、あんまり（ふーん）、あの、レストランに、あの一人で、あまり行かないと思います。ちょっと、変ですが。あの、イギリスで、あの、日本で普通だと思います。たぶん、日本で、あの、日本のアパートとかは小さい、普通に小さいですから、あの、あ、外、外で、あ、食べること、が普通です。あ、日本の、あ、の食事、あの、のレストランや、あ、のあー・・・の物価↑あの、イ、イギリスより、安い、と思います。あー、これはたぶん、一の理由、一つの理由です

そして、実際に初めは怖かったけれど、実際に自分でも一人でレストランに入って食事をしてみて、その後、何度か出かけるようになったことが語られた。

例4：日本での、あの、レストランや、あの、ラーメン屋とか、あの、たぶん、カフェ、あの、イギリスのカフェの雰囲気、は近い、と思います（うんうんうん）。私は、あの、弘明寺に住んでいた時、あの、ラーメン屋と、あの、お好み焼き屋に、よく行きましたから、あの、よく、あー、働く人を、よく知っていました

3.2 B の連想語

表6 B の留学前の連想語

Clusterの名付	重要度	連想語	印象
Drinking	CL1: differences in drinking parties	12 Japanese have different types of drinking parties.	+
		16 Have to distinguish between work and personal life.	0
		18 Drinking parties involve more male people, than female.	0
		6 Drinking is a social act of getting to know people.	+
		13 There are after parties.	+
	CL2: Business related drinking parties	5 Doing work involves drinking with colleagues, superiors and clients. It's part of business deals.	-
		15 Drink with colleagues or superiors.	0
		3 Drinking/social meeting a mean to relieve stress.	-
		4 よく仕事のあとに飲みます。	-
		2 よく酒を飲んでいきます。	0
	CL3: Decision	8 It is not allowed to not drink at all, but it is allowed to drink slowly.	-
		11 Every one has to know their own drinking limit. It is bad to cause troubles to others.	+
		1 Not allowed to refuse an invite to drink.	-
		14 There are culutural aspect to drinking. E.g., you never fill up your own glass.	+
		7 Everyone knows it's not allowed to drive after drinking.	+
	CL4: Preferences	9 強いと弱いお酒を飲みます。	0
		10 Different alcoholic drinks.	0
17 Next morning have hangover.		-	

表7 B の留学中の連想語

Clusterの名付	重要度	連想語	印象
飲み会	CL1: 規則	3 日本人はよくお酒を飲みます。	0
		12 飲み会という言葉があります。	0
		6 飲み会の誘わると、断ることはよくないです。	-
		7 飲み会によるときそくがあります。	0
		5 無理やり飲まされてしまうことがあるかもしれない。	-
	CL2: いろいろな 飲み会	10 仕事の人とよく飲みます。	0
		11 人によると色々な飲み会があります。 (大学の飲み会とか、社会人の飲み会もあります。)	+
		2 飲み会は日本の文化の1つ点です。	+かも
	CL3: 理由と結果	1 酒を飲んで車を運転は危険です。	-と+
		4 他人に迷惑はよくないです。	-と+
		8 仕事のストレスを解消する方法です。	0
		9 飲みに行くはよっぽらいになるわけではないです。	+

表8 Bの留学後の連想語

Clusterの名付		重要度	連想語	印象
習慣	CL1: 飲み会	12	よっぱらい	0
		13	飲み会	0
		11	週の中で飲む	-
		8	日本でお酒のしゅるい	0
		2	ストレス解消方法	0
		10	しゅみ	0
	CL2: 変化	1	習慣	0
		7	生活の変化	+
		5	じょうしと関係	0
		6	きそく	+
		3	仕事の面と外の面	-
		4	マナー	+
		9	立前と本め	0

Bの留学前の連想語にもAと同様に読解教材で提示された情報が出てくるが、加えて“Every one has to know their own drinking limit. It is bad to cause troubles to others.” “Everyone knows it's not allowed to drive after drinking.”などすでに相対化の視点が観察される。留学中の大学での飲み会など体験も想起しているが、「飲み会の誘わると、断ることはよくないです。」や「飲み会によるきそくがあります。」など来日前にも英国のゼミなど様々な機会に得た情報だとした連想語も多い。また、飲酒で他者に迷惑を与えることなどは、母国と英国、日本の体験から共通点・相違点に言及しつつ、体験した環境が違うのできちんと比較できないと述べてもいる。

留学中の連想語でも「日本人はよくお酒を飲みます。」などAと同様に日本・日本人との直接の接触に基づく連想語が見られるが、日本に関して発想する内容は体験に基づいて変化したり強化したりした様子がなく、留学前と留学中では傾向にあまり変化が見られない。

それに対して留学後は、連想語においても発話の内容や発想するイメージにおいても変化が観察された。まず、連想語群が留学前・留学中が飲酒が中心にあったのに対して、留学後はそこから話題が日本の習慣や考え方などへと発展していることが見て取れる。また、来日前にアニメや授業などで大体同じようなイメージは得ていると言いつつも、留学後は初めに想起する場面が自分自身の体験した飲み会となっていたり、体験して気づいた相違があると述べたりしている（例5）。

例5：たぶん日本に行った前に、ん、日本人のみなさん、すごく真面目な人に見えたんですが（うん）、あ、本当に行って、まあ、あー、ヨーロッパとそんなに違くない、違いがないと思いました（うーん）。真面目な、んー、なんか、真面目な場所で、あー、そして、特別の時間で、真面目に全部しましたけど、あー、この、必要がないときに、ちゃんと、あー、ん、なんか、あー、やりたいこと、やりました。感じがあります。

また、Bは日本での体験や日本人との接触の中で、日本あるいは日本社会が変わりつつあるということも感じと言い（例6）、CL2の名付を「変化」とした。

例6：日本人の友達と話をして、あー、今、なんか前に、そうだった。今はもう、これをするの必要が無い。あー、話もよくありましたので。で、たぶん、えー、日本はもっと、国際的な国になりたいので、あー、それで、色々な、あー、外国の習慣をとっています。もう考え方も、か、変わって、少しずつ変わっていますので、んー、そうですね。そのようなこと、思いました。（中略）例えば、えーっと、お、飲み会に行って、えー、お酒を、飲まなければならないと思いましたが、今の、日本人友達は、と話をして、まあ、飲んだ方がいいんだけど、本当に、お酒を飲まないなら、ちゃんと説明して、飲まなくてもいいです（うーん、なるほどね）とか、そして、もっと、あー、断る、飲み会の誘うのは断る場合も、増えたらしいです。

さらに、Bは、来日前にアニメなどで見ていたことについても、来日前には「本当だろうか」と思っていたが、日本での留学体験を踏まえて確信したということも語っている（例7）。

例7：（日本に行く前からそう思ってたんですか↑日本に行って、サラリーマン見て）うーん、そうですね。あー・・・まあ、そのイメージがありましたけど、あー、信じるかどうかまだ、き、決まる気持ちが無かった（うんうんうん）。あー、でも、アニメから少し、うん、このようにして、イメージがありましたね。（で、行って、自分で見て、あ、信じなくちゃっていう。）本当に、そうです、そうですね。

その他にも、CL1について語る際に連想項目11は、平日から家の外でもかなり酔っばらう日本人を見て驚いたことを想起したと語っており、来日前から日本に関する知識・イメージを多く持っていたBにとっても新味のある体験があり、それを踏まえて日本から発想するイメージが変容したり更新したりされていることが窺える（例8）。

例8：これたぶん、ん、仕事によると（ふーん）、あー、人による、そうになりますけど、でも、私のイメージは、ヨーロッパで、週の中であまり飲まない、お酒を飲まないの感じがありますが、あー、まあ、酔っ払いになるまで。でも、日本の場合、これ、も、もっと、よく週の中で飲む、感じがありました。（中略）特に（うん）、地下鉄、夜の方が、地下鉄（ええ）を飲んだり、酔っ払い人が結構いますね。（そうでしたか（笑））酔っ払いサラリーマン（ふーん）電車の中で、の、あ、なんか寝たり。

4 考察

本研究の特徴の一つは個人差が大きく、統制をかけた調査をしにくい中級レベルの学習者を対象に、個人の変容に着眼した質的研究でありつつも同一要素を持つ調査協力者複数の事例を扱っており、比較が可能なことである。丸山・小澤（2013）は、留学前・留学中の条件がほぼ同一で、それぞれスタイルは異なるものの日本の情報、日本・日本人へのアクセスも積極的な2名に（1）留学前・留学中とで連想語の傾向の違いが見られ、Aにはダイナミックな変化が観察されるのに対し、BはAほどの大きな変化が観察されない、（2）Bには留学前の連想語にすでに相対化の視点が散見されるということを示した。2名の属性における相違は、今回の留学が本人にとって初めての経験か否かという点で、筆者らはこれに着目したい。すなわち、Aは初めての留学である日本での生活から、文化や社会を相対化する視点を獲得しつつ日本・日本人と向き合っているのに対し、Bは英国留学という経験により文化や社会を相対的に捉える視点をもっており、日本留学でもその視点を持ちつつ、日本・日本人と向き合っていると考えられる。この結果から、仕事や留学による人の移動がさらに活発化している現在、これからは日本でもBのような交換留学生を多く受け入れることになると考えられ、初めての留学という位置づけで来日する学生と2度目以降の留学という位置づけで来日する学生とでは、日本語教育においても扱う教材や授業運営のしかたも異なる工夫が求められるであろうという示唆を得られる。

丸山・小澤（2013）を踏まえて、留学後の結果も含めてみると、AもBも留学後には留学中のインタビューでは語られなかった、本人の印象に残っている具体的なエピソードが語られた点や、留学後も、相対化の視点は維持している点、さらに、日本語力が向上したことが、発想内容に影響を与えている可能性がある点が共通して観察された。その一方で、Bは、以前から知っている「日本」について体験によってイメージが強化されたり更新されたりするなどして、相対化の視点がさらに豊かになったことがわかった。この結果は、留学という経験の有無が日本語学習者の日本語教材の読みを豊かにしているということだけでなく、経験を重ねるほど日本語学習者自身の読みもまた豊かになることを示唆しており、そして、AとBの日本・日本人への理解も留学中の経験が留学後も醸成され、更新されつづけていると考えられる。

留学中の日本語クラスが、留学生にとって、異文化体験の真ただ中にある時期に、同時に多様な背景を持つクラスメイトと出会う場であることから、丸山・小澤（2011b）は、留学中の日本語クラスを留学生の異文化経験を共有する機会とすることの可能性について提言している。しかし、今回の調査結果からは、留学後に、時間の経過を経ても留学経験についての振り返りがあること、本人にとって印象に残った経験を反芻している様子が窺えることから、留学中の日本語クラスは、日本語学習者にとって留学後の振り返りの機会があるであろうことを念頭において、丸山・小澤（2011b）が提案した日本語クラスの機能を活性化させるのが望ましいことを示唆する。

また、Bの場合、経済的な理由から送り出し校のある英国にいるときはアルバイトで忙しいが、留学中は奨学金が与えられたことで生まれた時間の余裕が、大学の部活動に参加するなどの日本体験を広げる要因になっていたことが、留学中、留学後のイン

タビューから窺えた。日本留学中の経験が、日本語の授業のための課題に追われるのみとならず、教室外で学んだことが日本語クラスの教室に持ち込まれる余地を残す意義が示唆されている。

本稿では日本への留学が初めての留学経験かどうかという点で属性が異なる2名の日本語学習者を分析対象としたが、留学経験は初めてでも旅行による渡日体験がある場合はどうか、日本語学習者の居住環境が民族的多様性に富む地域である場合、日本語学習者が送り出し校のある地域に移住して居住している場合はどうかなどの点には踏み込むことができなかった。筆者らのこれまでの研究では、こうした事例に該当する協力者についても調査をしてきているので、今後研究の俎上に載せていきたい。

註

-
- 1 表3から表8の連想語は協力者の表記のまま。紙幅によりデンドログラムは省略した。CLはクラスターの略。CLの名付けは協力者本人によるもの。
 - 2 例示した発話の中の()内の発話は調査者らの発話である。
 - 3 協力者Aが通う大学がある都市の名前
 - 4 本論文は、2014年度日本語教育学会秋季大会においてポスター発表を行ったものに加筆修正を施したものである。
 - 5 本論文は、平成23-25年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「留学経験から発想する日本語授業の新たな意義—PAC分析を活用した縦断的研究—」(研究代表者:丸山千歌、課題番号:23520617)の取り組みの一部である。

参考文献

- 工藤和宏(2009)。「日本の大学生に対する短期海外語学研修の教育的効果—グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づく—考察」。『Speech Communication Education』22, 117-139.
- 丸山千歌・小澤伊久美(2008)。「PAC分析におけるフェイスシートの開発に向けた課題—日本語教材と学習者のインタラクションの解明に向けた研究のために—」。『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』15, 3-19.
- 丸山千歌・小澤伊久美(2011a)。「日本語学習者が読解教材から連想するイメージ—PAC分析法を活用した留学前・中・後の縦断研究から—」。2011年度異文化間教育学会第32回大会, 2011年6月11日(発表抄録集 pp. 154-155)。
- 丸山千歌・小澤伊久美(2011b)。「留学経験から考える日本語教育の可能性—PAC分析を活用した縦断的研究から—」。『世界日本語教育大会 異文化コミュニケーションのための日本語教育①』於天津外国語大学, 2011年8月20日。(pp. 259-260)
- 丸山千歌・小澤伊久美(2011c)。「同じ読解教材を刺激としたことがいかに連想に現れたか—留学生Fに対する縦断的PAC分析調査から—」第5回PAC分析学会大会, 2011年12月17日(発表抄録集 pp. 15-20)。
- 丸山千歌・小澤伊久美(2013)。「読解教材を刺激とした留学生の発想—日本人との接触や日本体験はどのような影響を与えているか—」。『CAJLE2013 Proceedings』147-156. <http://www.jp.cajle.info/cajle2013-proceedings/>